

ク。

昭和二十二年七月二十四日

復員廳 總裁

復二第五三一號

復員廳地方復員局定員表中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳 總裁

吳地方復員局ノ部中下關掃海部ノ項「二七」ヲ「一七」ニ、「九〇」ヲ「五一」ニ、「三三」ヲ「四七」ニ、計ノ項「二二〇」ヲ「一一〇」ニ、「三六」ヲ「三三」ニ、「九二五」ヲ「八四一」ニ改メル。
合計ノ項中「五六〇」ヲ「五五〇」ニ、「一、三四七」ヲ「一、三〇八」ニ、「四、〇四六」ヲ「三、九六二」ニ改メル。

(參照 五月十六日第二復員局公報)

復二第五三二號

當分ノ開試航基地設置等ニ關シ次ノヨウニ定メル。

昭和二十二年八月一日

復員廳 總裁

第一條 吳地方復員局ノ試航基地ヲ左ノ地ニ設置スル。

吳、徳山

第二條 試航基地ノ任務ハ左ノヨウデアル。

一 試航船ニ對スル燃料、清水及ビ生糧品ノ補給

二 試航船ソノ他ノ遭難時ニオケル救難

三 水中障害物ノ掃海探知

四 試航用浮標、水中障害物、浮標設置及ビ揚收

五 船體機關ノ修理ニ對スル連絡

六 試航關係員ノ休養

第三條 試航基地長ニハ二級ノ復員事務官ヲ以テコレニ充テ
ル、吳地方復員局長ノ命ヲ受ケテ試航基地ノ事務ヲ掌ル。

試航基地ハ應ニ、試航基地長ハ廳長ニ準ズルモノトスル。

第四條 試航基地ノ定員及ビ所屬船艇ハ別表第一及ビ第二ニヨ
ル。

第五條 試航船ハ掃海船東亞丸、桑榮丸、榮昌丸及ビわかくさ
丸トシ各船ニ一隻宛ノ追跡艇(觀實丸、長門丸、蓬來丸、雄
風丸)ヲ配スル。

第六條 掃海船艇ノ定員ハ別表第三ニヨル。

附則

昭和二十二年復二第一五七號掃海船艇ノ定員試行ノ件ハコレヲ
廢止スル。

(別表添)

(復二第五三三號別表第一)

(昭和二十二年八月二日復員廳第二總員局公報)

試航基地	種別	復員事務官			職員備入	計
		二級	三級	七級		
中央試航基地	基地員			七	六	一七
徳山試航基地	基地員			七	六	一七
徳山試航基地	基地員			四	七	一一

(復二第五三三號別表第二)

試航基地		試航基地配屬船艇	
試航基地	配屬	船	艇
吳試航基地	曳船第五一八號、曳船第八七九號 曳船(自走水碓)第五三九五號 追躡艇(豫備)横須賀丸		
徳山試航基地	曳船第一〇三〇號、曳船第一一二二號 曳船(クレーン)第五六九八號 兼船四隻(金龍丸、漁進丸、第三北浦丸、久徳丸) 汽艇一隻、通船一隻、シヤラン船一隻、グルマ船一隻		

(復二第五三二號別表第三)

(昭和二十二年八月二日復員廳第二復員局公報)

備考	船航試		道 躰	雜 船	大 發	曳 船 乙	曳 船 甲	元 驅 潛 特 務 艇	元 哨 戒 特 務 艇	元 特 設 掃 海 艇	船 艇 官 職 名		掃 海 船 艇 定 員 表
	わ か く さ 丸	桑 丸									東 亞 丸	船 名	
	1	1				1	1	1	1	1	長艇船		
	5	6						1	2	2	科兵元		
	4	4						1	1	1	機科 元關		
	1	1									醫科 元務		
	1	1									主科 元計		
	11	13	2	1	1	2	4	5	7	6	科兵元		
	8	11	2	1	1	3	5	3	3	4	機科 元關		
	1	1									看科 元護		
	2	3									主科 元計		
	12	15	3	1	3	2	5	9	10	7	科兵元		
	12	13	3	2	2	2	4	4	4	3	機科 元關		
		1									看科 元護		
	3	3						1	1	1	主科 元計		
	61	73	10	5	7	10	19	25	29	25	計		合

曳船(自走水船)及ビ曳船(クレーン)ヲ乙、ソノ他ノ曳船ヲ甲トスル。

復員廳第二復員局公報

第一三〇號

第二復員局文書課

○令 達

復二第五三三號

第二復員部内臨時勤務地手當支給規則ノ一部ヲ次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳 總裁

第二條中「イ」ヲ「特別地域」ニ「ロ」ヲ「甲地域」ニ「ハ」ヲ「乙地域」ニ改メ乙地域中「前各號以外ノ市」ノ下ニ「及ビ廣島縣大竹町」ヲ加ヘル。

附則

本則ハ昭和二十二年四月一日以後ノ給與ニツキコレヲ適用スル。

○通 牒

第二〇番電（昭和二十二年七月二十三日發電済）

發 第二復員局長

宛 部内一般

一月分乃至三月分給與追給ノ件

本年七月一日現在内地ニアル第二復員部内各隨ニ勤務スル者デ本年一月一日カラ三月三十一日迄ノ間オイテ暫定加給ノ支給

ヲ受ケテキタモノニハ左ニヨリ本年一月分乃至三月分ノ給與ヲ追給スルコトニ定メラレタ。

一 支給額

左ノ各號ノ合計額カラ本年一月一日カラ三月三十一日マデノ間ニ支給シタ給與總額（俸給又ハ給料（報酬ヲ含ム以下同ジ）、臨時勤務地手當、臨時家族手當及ビコレラニ對スル暫定加給）ヲ控除シタ額

（イ） 本年一月一日カラ三月三十一日迄ノ間ニオイテ支給シタ俸給又ハ給料及ビ俸給、給料ノ暫定加給

（ロ） 前號ノ期間中ニ支給シタ俸給給料ノ暫定加給ノ六割ニ相當スル金額

（ハ） 百五十圓ニ（イ）ノ期間中ニ支給シタ臨時家族手當ノ算出ノ基礎トナツタ各月ノ扶養家族員數ノ延人員數ヲ乘ジテ得タ金額

（ニ） （イ）乃至（ハ）ノ合計額ニ左ノ率ヲ乘ジテ得タ金額

東京都、京都市、大阪市及ビ神戸市ヲ勤務地トスル者 三割

横濱市、名古屋市、横須賀市、福岡市及ビ門司市ヲ勤務地トスル者 二割

右以外ノ市及ビ大竹町ヲ勤務地トスル者 一割

復員廳第二復員局公報 第一三〇號 昭和二十二年八月四日

一五三

1552

支給額

三、二二五圓未満の場合、一割六分相當額
三、二二五圓ヨリ三、二五〇圓迄 五〇〇圓
三、二五〇圓ヨリ三、三七五圓迄 五二五圓
以上二二五圓又ハ三、二五〇圓未満ヲ増ス毎ニ右ニ二
五圓ヲ加エタ額

(註) コレハ所得税法別表第三中三ヶ月迄ノ場合ノ稅額ニ
ヨルモノデアル。

支拂方法

三 支拂方法
全額自由支拂

四 支出科目
行政共通費ノ給與特別措置費(日、節)

五 其ノ他
新基本給決定後過渡トナル分ハ還付セシメラレルトアルベ
シ。

(註) 外地ニ在ル元軍人軍屬ニハコノ追給ハ行ソレナイ。

二復經主第七號ノ四七
昭和二十二年七月三十一日
復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿
政府職員ノ災害補償ニ關スル件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り大藏省ヨリ通知ガアツクカラ該當事
項ガアル場合ニハ地方復員局長經山第二復員局長ニ上申スルヨ
リ取計ソレタイ。

給發第七七二號
昭和二十二年七月十七日

第二復員局經理部長殿

政府職員ノ災害補償ニツイテ

職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ死亡シ又ハ障害ヲツケタ政府職員
ノ災害補償ニツイテハ別紙ノ次官會議議解事項ニ基イテコレヲ
處理スルコトト致シタイカラ、右御了知ソレタイ。

政府職員ノ災害補償ニツイテ

昭和二十二年七月七日次官會議議解

職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ死亡シ又ハ障害ヲツケタ政府職
員ノ災害補償ニツイテハ、勞働基準法ノ公布ニ伴ヒ、目下關係
法令ノ制定ヲ考慮中デアアルガ、右法令ノ制定ニハ相當ノ時日ヲ
必要トスルノデ右法令ノ制定ニ至ルマデノ暫定的ノ措置トシテ
職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ退職(死亡ヲ含ム)シタ職員ニア
ツテハ、退官、退職手當支給率則第九條ノ規定ノ運用ニヨリ、
在職中ノ職員ニアツテハ同基準法ノ趣意等ヲ考慮シテ適宜處理
スルコトトシ、コレガ支給額ニツイテハソノ都度所管大臣ガ大
藏大臣ト協議シテコレヲ決定スルコト。

(參考) 退官、退職手當支給率則拔萃

第九條 第二條乃至第六條及七前條ノ規定ニヨリガタイ特別
ノ事情アル場合ニオイテハ、所管大臣ガ大藏大臣ト協議シ
テ別ニコレヲ定メルコトガデキル。

(第二條乃至第六條ハ支給率ノ條文ニシテ第八條ハ勤務期
間ノ條文ナリ)

給與

復員廳第二復員局公報

第三三二號

第二復員局文書課

○令 達

復二第五三九號

元海防艦 保 高

元第三十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年七月十九日

復員廳 總裁

復二第五四〇號

元第五十八號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年七月二十五日

復員廳 總裁

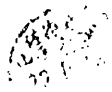
復二第五四一號

元驅逐艦 桐

同 初 櫻

元海防艦 生 野

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。



元第五十二號海防艦

元第七十八號海防艦

元第七十九號海防艦

元第四百四十二號海防艦

元第二百二十一號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第八十七號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元驅逐艦 葛

復二第五四二號

元驅逐艦 杉

元海防艦 對 馬

元第五十八號海防艦

元第四百十八號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

復員廳第二復員局公報 第一三一號 昭和二十二年八月六日

二五五

復員廳第二復員局公報 第一三一號 昭和二十二年八月六日

一五六

元第九十二號海防艦
元第九十八號海防艦
右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元第八十五號海防艦
元第二百五號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年七月三十一日

復員廳總裁

復二第五四三號

昭和二十年內令第七號中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月一日

復員廳總裁

大竹掃海部ノ項ヲ削ル。

下關掃海部ノ項掃海艦名ノ欄ヲ「哨特第三百三十五號、同 第三百三十六號、同 第三百三十八號、同 第三百三十九號、同 第三百五十二號、同 第三百五十三號、同 第三百五十四號、同 第三百五十五號、同 第三百七十九號、同 第三百九十一號、同 第八十四號(舞)、同 第三十一號(阪)、同 第三百三十四號(阪)、驅潛特第七十二號、同 第七十九號、同 第八十六號、同 第二百十四號、同 第二百五號、同 第二百二十二號、同 第二百四十六號、同 第八十八號(横)、同 第三百五十二號(横)、同 第二

百二號(横)、同 第九十號(佐)、同 第九十三號(佐)、同 第九十九號(佐)、同 第二百三十一號(佐)、同 第二百四十九號(佐)、同 第二百二十一號(阪)、同 第二百四十二號(阪)ニ、掃海船又ハ隻數ノ欄ヲ「第二鮮友丸、雜役船(曳船)二隻」ニ改メル。
阪神掃海部ノ項ヲ削ル。

(參照 昭和二十年三月六日第二復員省公報第一〇號)

復二第五四四號

橫須賀地方復員局所管

掃海艦 驅潛特第一號
同 第六十八號
同 第一百五十五號
同 第一百五十九號
同 第六十一號
吳地方復員局所管
同 第五十八號
同 第七十八號
同 第六十四號
同 第六十五號
同 第七十五號
同 第七十九號
同 第八十一號
同 第八十六號

○通 牒

二復補第二二八號

昭和二十二年八月二日

復員廳第二復員局補給部長

關係各廳長殿

液體燃料換算率ノ件通牒

連合軍ヨリ受込ノ「デイゼル油」ノ單位換算率ニ關シテハ、受込單位ガ「應」ノ場合ハ、二復補第一一八號通牒(備考一)ニ拘ハラズ二復補第七番電(備考二)ノ通り一應(平均比重15°C・0.840トシテ)、一九〇立)シテ五「バレル」トシテ處理スル事ニ定メラレタ。

(備考)

一、二復補第一一八號(二二一〇一四)

發 二復補給部長 宛 各地方補給部長

燃料單位換算率ノ件通牒

連合軍ヨリ供給受ノ重油、潤滑油等ハ、「一軒」「六、二八九「バレル」ノ換算率ニヨリ處理サレタイ。尙重油ハ從來通り一應一、〇七〇立トスル。

二、二復補第七番電(二二一七一四)

發 二復補給部長 宛 横、吳、佐、舞各復總、特別保管艦

今後「バレル」ノ換算率ハ二復補第一一番電(二二一六一

二七)ニ拘ハラズ從來通り七・五(デイゼル油)、六・七(罐

用重油)ヲ使用スルコトニ定メラル。

(二復補第一一番電中「ハ」「トシ」「バレル」ノ換算率ハ

左ニ依ル。

(本作米側指示ノモノ)

デイゼル油六・七バレル、罐用重油六・二九バレル

三、右「デイゼル油」ハ帳簿整理上B重油ノ取扱ヲスル。

○雜 款

○事務所、移轉

八月一日閉廳吳試航基地

吳市海岸通七丁目(舊驅逐艦棧内)

宮崎縣教育民生部第二世話課

宮崎市別府町宮崎縣廳内(電話二八番)

復員廳第二復員局公報 第一三三號

昭和二十二年八月十五日(金)

第二復員局文書課

○令ニ達

復二第五五五號

元海防艦 樺 提

特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解

昭和二十二年八月五日

復員廳總裁

復二第五五六號

元驅逐艦 樺

特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解

昭和二十二年八月七日

復員廳總裁

○通牒

復二第五五〇號

昭和二十二年五月三日

復員廳總裁官房長

各地方復員局長殿

海軍ノ軍人軍屬デアツタ者ノ身上ノ取扱及ビ
ソノ家族等ニ對スル俵給ソノ他ノ給與事務ニ
關スル件申進

首題ノ件朝鮮ニ關スルモノハ、吳地方復員局ニオイテ、滿洲、
關東州、臺灣及ビ沖繩ニ關スルモノハ、佐世保地方復員局ニオ
イテ、千島及ビ樺太ニ關スルモノハ、横須賀地方復員局(事務
ノ一部ヲ北海道民生部第二世話課(札幌)ニ依託スル)ニオイ
テ處理サレクイ。

第七番電(昭和二十二年七月一日發電済)

發 經理部長

宛 各地方復員局經理部長、各管船部長、各艦船長

四ヶ國引渡ノ爲ノ回航艦船乗員ノ給與ニ關ス
ル件

四ヶ國ニ引渡ノ爲ノ回航艦船乗員(以下乗員トイフ)ノ給與取
扱ハ左ニヨルコトニ定メラル。

一 乗員ノ一回航ノ期間(内地ノ最終港灣ヲ出港ノ日ヨリ最初
ニ内地ノ港灣ニ歸着ノ日迄ヲイフ)ガ三十日以内ノ豫定デア
ル場合ハ乗員ニ支給スル俵給又ハ給料、暫定加給、家族手當
及ビ勤務地手當(一割額トス)ハ本年五月二復經主第二號ノ

復員廳第二復員局公報 第一三三號 昭和二十二年八月十五日

一六一

1559

四二第三號（俸給等三月分以内前金拂ノ件）ニ拘ラズ出港ノ月分ヲ含ミ二月分以内ノ前金拂ヲ爲スヲ例トス。

二 乗員ノ航海日當ハ第二復員部内職員給與規則第六條ノ規定ニ拘ラズ一回航海ノ期間中支那沿岸ニツイテハ二級官二十回、三級官十五回、雇員十回、米（比）、英、ソ沿岸ニツイテハ二級官三十回、三級官二十回、雇員十五回ヲ日額ニヨリ支給ス。

三 乗員トシテ又ハ乗員ヨリ他ニ赴任又ハ轉勤スルトキハ旅費支給上臨時勤務者ノ例ニヨリ旅費（移轉料、着後手當及ビ家移轉料不給）ヲ前金拂スルモノトス。

復二第五六二號

昭和二十二年八月一日

復員廳第二復員局長

關係各廳長殿

臨時囑託者採用ニ關スル件申進

復員業務遂行上、各所屬ノ長方特ニ必要ト認メタ者ニツキ、左記ニヨリ囑託者トシテ臨時採用スルコトガデキル。

昭和二十二年四月第一六一六五四番電（第二復員省公報第八四號參照）ハ、昭和二十二年七月三十一日限リコレヲ廢止スル。

記

一 本中進ニヨツテ採用ノ囑託者ヲ臨時囑託ト稱スル。

二 臨時囑託ハ外地ヨリ歸還セル部隊、隨等ノ職務整理ニ當ル

ベキモノデ、期間ハ約一ヶ月トシ、止ムヲ得ナイ場合ハ二ヶ月マデ委囑スルコトガデキル（元大佐以上ノ者ノ採用ハ豫メ中央ノ許可ヲ必要トスル）。

三 待遇ノ決定ハ現行囑託者待遇内規ニヨルガ、辭令中「部内限待遇」ニ代エ「部内限扱」ヲ以テシ、一般囑託者ト區別スルモノトスル。

四 報酬額ハ囑託者報酬標準ニヨル。

五 本臨時囑託ノ採用及ビ解囑ニ際シテハ、従前ノ例ニヨリ速カニ報告シナケレバナラナイ。

七 本報酬支出科目ハ復員費第二復員費給料在外者給トスル。

○雜款

○名稱變更

秋田縣民生部世話課（分室）

秋田市土手長町上丁一ノ一

○移轉

德島縣教育民生部第二世話課

德島市新藏町一丁目二十三番地（電話德島一九番）

1560

復員廳第二復員局公報

第一三三號

昭和二十二年八月二十日(水)

第二復員局文書課

○令 達

復二第五六八號

元驅逐艦 夕風
元第十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解

ク。

與課長

元海防艦 金輪
元第二十七號海防艦
元第六十號海防艦
元第二百二十六號海防艦

右ヲ特別輸送艦トシテ佐世保地方復員局所管ト定メタノヲ解

ク。

課長附

元驅逐艦 横

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月十四日

復員廳總裁

復二第五六九號

昭和二十二年復二第五三三號試航基地設置等ニ關スル件中次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月十八日

復員廳總裁

第七條 紀伊山良ニ大阪地方復員局ノ補給基地ヲ置ク、ソノ任務ハ左ノヨウデアル。

一 掃海要具ノ保管及ビ修理補給

第八條 紀伊山良補給基地ノ定員ハ左ノ通り定メル。

復員事務官 二級 四人

復員事務官 三級 十三人

雇員、傭人 十三人

第九條 紀伊山良補給基地ニハ二級ノ復員事務官ヲ以テコレ

ニ充テル、大阪地方復員局長ノ命ヲ受ケテ補給基地ノ事務ヲ

掌ル。

紀伊山良補給基地ハ廳ニ、紀伊山良補給基地長ハ廳長ニ準ズ

ルモノトスル。

第十條 紀伊山良補給基地ニ左ノ曳船ヲ附屬スル。

曳船第六一九號、曳船第八二七號

附則

コノ命令ハ昭和二十二年九月一日カラコレヲ施行スル。

(參照 八月一日第二復員局公報)

復員廳第二復員局公報 第一三三號 昭和二十二年八月二十日

一六三

1561

○通 牒

二復經會第一號ノ一二八

昭和二十二年八月一日

支出官復員廳第二復員局經理部長

各資金前渡官吏殿

手許保管金ノ件通知

出納官吏事務規程第二十七條ニヨル首題ノ金額ヲ三萬圓ト定メ
ル。

二復經會第二號ノ七九

昭和二十二年八月五日

復員廳第二復員局經理部長

關係各廳長殿

「國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂等規
則」中一部改正ノ件通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り改正サレタカラ、承知サレタイ。

(昭和二十二年三月二十七日第二復員省公報第五九號參照)

大藏省令第七二號

國又ハ都道府縣其ノ他地方公共團體受拂等規則ノ一部ヲ次ノ
ヨリ改正スル。

昭和二十二年七月二十六日

大 藏 大 臣

第一條第一項第三號中「五百圓」ヲ「五千圓」ニ改メ
ル

附 則

コノ省令ハ公布ノ日カラコレヲ施行スル

○難 款

○郵便物發送先

特別保管艦 海第八十七號殘務整理班

京都府舞鶴市宇長濱(舞鶴地方復員局管船部内)

元特別保管艦 生野、神津、倉橋、屋代、保高、四阪

横須賀市浦賀町

(管船部補充課第一宿舍内第四群殘務整理班)

○殘務整理

八月六日開始 海第二〇五號及二〇七號 舞鶴管船部内

○正誤

七月三十日附復員廳第二復員局公報第一二八號復二第五一五
號中「別表ヲ別表ノヨウニ改正スル」ハ「別表中「掃海慰勞
金」ノ上ニ「別表第一(勤務期間十四月未滿ノモノ)」ヲ加ヘ

同表ノ次ニ別表第二トシテ別表ヲ加フ」ノ誤リ又同號中別表
ニ「別表第二(勤務期間十四月以上ノモノ)」ヲ脱ス。

第二復員局公報第一三三號一六二頁臨時囑託者採用ニ關スル
件中進中左記「五」ハ「六」ノ、「七」ハ「五」ノ執レモ誤

1562

復員廳第二復員局公報

第一三四號

昭和二十二年八月二十七日(水)
第二復員局文書課

〇令一總

復二第五七〇號

當分ノ間第二復員部内職員公務ニ依リ内地ヲ旅行スルトキ支給スベキ車馬賃、日當、宿泊料及ビ食卓料ハ海軍内國旅費規程第三表及ビ第四表ノ規定ニカ、ワラズ別表ニヨル。
本則ハ昭和二十二年八月一日以降ノ旅行ニツキコレヲ適用スル。

昭和三十二年八月復二第一七九號及ビ昭和二十二年五月復二第三七五號ハ昭和二十二年七月三十一日限りコレヲ廢止スル。
課長 復員廳總裁

別表

區分	金額
車馬賃(六)料ニ付	一〇〇〇
日當(一)料ニ付	四〇〇〇
宿泊料(一)料ニ付	二〇〇〇
乙地方	一五〇〇
甲地方	二〇〇〇
一夜ニ付	一五〇〇

食卓料一夜ニ付

四〇〇〇

- 備考
- 一 甲地方トハ東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、神戸市、横濱市ヲイフ。
 - 二 乙地方トハ前記以外ノ地方ヲイフ。
 - 三 一料ノ計算ハ一哩ハ二・六料、一哩ハ一・八五料、一里ハ四料ト看做シコレヲ計算スル。

復二第五八二號

復員廳第二復員局及ビ地方復員局ノ定員ヲ各々別表ノヨウニ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。
昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁

(別表ニ葉添)

復二第五八三號

掃海監部規程中次ノヨウニ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。
昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁

掃海監部定員表中復員事務官二級「二三」ヲ「九」ニ、復員事務

復員廳第二復員局公報 第一三四號 昭和二十二年八月二十七日

一六五

1563

務官三級「一七」ヲ「二二」ニ、雇員、傭人「四一」ヲ「二九」ニ、計「七十四人」ヲ「五十三人」ニ改メル。

(參照 昭和二十一年十二月二十六日及比本年一月十五日第二復員局公報)

復二第五八四號

昭和二十二年復二第五三二號試航基地設置等ニ關スル件中次ノ事ヲ改正シ昭和二十二年十月一日カラコレヲ施行スル。

昭和二十二年八月二十六日

復員廳總裁

第四條中「定員及ビ」及ビ「及ビ第二」ヲ削ル。

第六條中「別表第三」ヲ「別表第二」ニ改メル。

第八條 削除

別表中別表第一ヲ削リ「別表第二」ヲ「別表第一」ニ、「別表第三」ヲ「別表第二」ニ改メル。

(參照 八月一日、八月二十日第二復員局公報)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先

試航船 榮丸 下關市吉見町 下關海部郵氣付
同 わかくさ丸 山口縣宇部市 宇部郵便局氣付

○ 移轉

德島縣教育民生部世話課第二復員係

德島市新藏町一丁目

○ 殘務整理

八月五日開始

特別保管艦海第六十七號 殘務整理班
舞鶴市長濱 舞鶴管船部内

(復二第五八二號第一表)

(昭和二十二年八月二十七日復員廳第二復員局公報)

復員廳第二復員局定員表

考 備	合 計	資 料 整 理 部	連 絡 部	調 査 部	補 給 部	經 理 部		人 事 部		總 務 部					文 書 課	部 課				
						主 計 課	會 計 課	人 事 課	扶 助 課	電 信 課	造 修 課	掃 海 課	管 船 課	總 務 課		復 員 課	事 務 官	嘱 託	雇 員、備 入	
一 總務部、人事部及び經理部ノ各課ノ人員ハ當該部ノ各課ヲ通ジテコレヲ置クコトガデキル。	四	一四	一四	一六	七	一四	七	二八	九	一八	三	五	五	七	一三	八	六	一	一	一〇二
二 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニハ復員技官ヲコレニ充テルコトガデキル。	一三七	一四	一四	一六	七	一四	七	二八	九	一八	三	五	五	七	一三	八	六	一	一	一〇二
三 復員事務官二級又ハ三級ノ定員ニ代エ嘱託ヲ置クコトガデキル。	一一八	四	二	三	三	二七	一八	三七	二二	二五	三	一七	七	四	五	五	四	一	一	一〇二
四 總裁官房ニ復員事務官二級一人及ビ三級一人並ビニ雇員備入四人ヲ配員スル。	五三	五	八	五	二	八	七	八	五	三	六	一	一	二	三	三	一	一	一	一〇二
五 掃海監部ノ定員ハ別ニ定メルトコロニヨル。	四八〇	一四	四	二二	一一	一〇八	九八	一八六	八四	一〇二	四三	一〇	七	八	九	九	一〇二			

復員廳第二復員局公報

第一三五號

昭和二十二年八月二十八日(木)

第二復員局文書課

○ 令 達

復二第五九五號

第二復員部内退職手當支給規則ヲ次ノヨウニ改正スル。

昭和二十二年八月二十七日

復員廳 總裁

第二復員部内退職手當支給規則

第一條 第二復員部内ニ勤務スル官吏、嘱託者、雇員及ビ傭人(以下職員トイフ)方退職(退官、解職、解雇、解雇及ビ死亡ヲイフ)スルトキハ本則ニヨリ退職手當ヲ支給スル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハコレヲ支給シナイ。

一 俸給、給料(報酬ヲ含ム以下同ジ)ノ支給ヲ受ケナイ者。

二 臨時ノ嘱託者、雇員又ハ傭人(外地ヨリ歸還シテ殘務整理員トシテ臨時嘱託トナツタ者ヲ含ム)。

三 禁錮以上ノ刑ノ確定シタ者。

四 懲戒又ハコレニ準ズベキ事由ニヨリ退職ヲ命ゼラレタ者。

退職手當ハ職員方退職シタ場合デアツテモ引續キ政府職員トシテ在職(退職ノ日又ハソノ翌日再就職シタ場合モ含ム)スルトキハコレヲ支給シナイ但シ官吏方嘱託者、雇員又ハ傭人

トナツタ場合ハソノ際コレヲ支給スル。

第二條 勤続十年未滿デ退職シタ者ニ對スル退職手當ノ額ハ左ノ各號ニヨツテ算出シタ金額ノ合計額以內トスル。

一 勤続五年以下ノ期間ニツイテハ滿一年毎ニ俸給又ハ給料月額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額

二 勤続五年ヲ超エル期間ニツイテハ滿一年毎ニ俸給又ハ給料月額ノ百分ノ二十七・五ニ相當スル金額

勤続十年以上デ退職シタ者ニ對スル退職手當ノ額ハ別ニ定メル。

第三條 傷痍疾病ニヨリソノ職ニ堪ヘズ退職シタ職員及ビ在職中死亡シタ職員ニ對スル退職手當ノ額ハソノ者ノ勤続期間ニ應ジ前條ノ規定ヲ適用シテ計算シタ金額ニソノ二十割ニ相當スル金額以內ヲ加算シタモノトスルコトガデキル但シ退職手當ハ少クトモ俸給又ハ給料月額ノ一・五百分ニ相當スル金額トシソノ金額ハ本人五百圓、扶養家族一人ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

第四條 職務執行上ノ傷痍疾病ニヨリ退職又ハ死亡シタ職員及ビ廢官、廢職又ハ整理ニヨリ退職シタ職員ニ對スル退職手當ノ額ハソノ者ノ勤続期間ニ應ジ前條ノ規定ヲ適用シテ計算シタ金額ニソノ三十割ニ相當スル金額以內ヲ加算シタモノト

復員廳第二復員局公報 第一三五號 昭和二十二年八月二十八日

一六七

1567

スルコトガデキル但シノ金額方左ノ各號ノ一ニ定メル金額ヨリ少額デアルトキハソノ多額ニツキコレヲ支給スル。

一 官吏ニ對シテハ休給ノ一・五月分ニ相當スル金額但シノノ金額ハ本人五百圓、扶養家族一人ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

二 囑託者、雇員及ビ傭人ニ對シテハ給料月額ト扶養家族一人ニツキ月額八十圓トノ合計額ノ一・五月分ニ相當スル金額但シ本人五百圓、扶養家族ニツキ百圓ノ割合ヲ以テ計算シタ金額ヲ下ツテハナラナイ。

三 囑託者、雇員及ビ傭人デ官衙ノ閉鎖要員ノ大幅整理(當該官衙ニアル囑託者、雇員及ビ傭人ノ全數ノ五分ノ一以上ヲ一時ニ整理スル場合シイフ)又ハ輸送任務又ハ掃海作業終了ニヨリ退職スル者デ在職中職務ニ精勵シ成績顯著ノモノニ限リ特ニ給料月額ト扶養家族一人ニツキ月額八十圓トノ合計額ノ二分分ニ相當スル金額

第五條 勤続期間ハ左ノ方法ニヨツテ計算スル。

一 勤続期間ハ月ヲ以テ計算シ一年未滿ノ端數ハコレヲ切捨テ但シ第三條及ビ第四條ノ場合ニ於テ勤続期間ガ一年未滿デアルトキハコレヲ滿一年ニ切上ゲル。

二 休職ソノ他職務ニ職務ヲ執ルヲ要シナシ在職期間ハコレヲ半減ス。

三 勤続期間又給期ハ昭和二十年十二月二日トスル。

四 囑託者、雇員又ハ傭人デ退職手當ヲ受クルモノノ在職期

間ニハ官吏デアツタ在職期間ハコレヲ通算シナイ。
第六條 退職手當ノ金額ニ回位未滿ノ端數ヲ生ジクルトキハコレヲ回位ニ切上ゲル。

第七條 廳長ハ勤務怠惰、成績不良其ノ他必要アリト認メル場合ハソノ情狀ニヨリ手當ノ額ヲ減ジ又ハコレヲ支給シナイモノトスル。

第八條 退職手當ヲ支給サレタ者死亡シタトキハソノ遺族ニコレヲ支給スル。
前項ノ遺族ノナイ場合ニ於テ葬祭ヲ行ツタ者ニ對シテハ遺族ニ支給サルル退職手當ノ二分ノ一ニ相當スル額ヲ支給スルコトガデキル。

第九條 支出官又ハ資金前渡官吏退職手當ヲ支給シタトキハ翌月十五日迄ニ等級別(一、二、三級官吏、囑託者、雇員及ビ傭人別)員數及ビ金額ヲ記載シタ調書ヲ作成シ所屬ノ經理部長ニ提出スルモノトスル。
經理部長前項ノ調書ニヨリ總括調書ヲ作成シソノ月ノ末日迄ニコレヲ第二復員局經理部長ニ送付スルモノトスル。

附則

本則ハ昭和二十二年九月一日以後退職シタ者ニコレヲ適用スル。
昭和二十二年八月三十一日限リコレヲ廢止スル。

復員廳第二復員局公報

第一三六號

昭和二十二年八月二十九日(金)

第二復員局文書課

○令 達

復二第五九六號

元 關 逐 艦 革

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

昭和二十二年八月二十日

復 員 廳 總 裁

復二第五九七號

元 第 一 號 驅 潛 特 務 艇

元 第 六 十 八 號

元 第 百 五 十 五 號

元 第 百 六 十 一 號

右ヲ特別輸送艦トシテ横須賀地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第 七 十 八 號

元 第 百 七 十 五 號

元 第 百 八 十 一 號

元 第 百 八 十 六 號

元 第 百 八 十 七 號

元 第 百 九 十 六 號

元 第 百 九 十 八 號

元 第 一 百 三 號

元 第 二 百 十 三 號

元 第 二 百 十 七 號

元 第 二 百 二 十 七 號

元 第 二 百 三 十 二 號

元 第 二 百 三 十 九 號

元 第 二 百 四 十 五 號

元 第 八 十 號

元 第 百 五 十 四 號

元 第 百 六 十 九 號

右ヲ特別輸送艦トシテ吳地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第 百 六 十 六 號

元 第 二 百 十 九 號

元 第 二 百 三 十 六 號

右ヲ特別輸送艦トシテ舞鶴地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。

元 第 一 百 四 十 五 號

復員廳第二復員局公報 第一三六號 昭和二十二年八月二十九日

一六九

元第三十七號
元第百八十三號
元第百八十五號

右ヲ特別輸送艦トシテ大阪地方復員局所管ト定メタノヲ解ク。
昭和二十二年八月二十八日
復員廳總裁

○通牒

第三番電 (昭和二十二年八月二日發電済)

發 經理部長
宛 部内一般

俸給支給日特例ニ關スル件

八月份ノ恒例諸給與(食料ヲ除キ且暫定加給ノ臨時増給ハ六割トスル)ノ支給日ハ八月五日ニ繰上ゲラル。
尙昭和二十二年六月十二日第一番電(六月十六日公報参照)中「四月分乃至七月」ヲ「四月分乃至八月」ニ改メル。

○雜款

○郵便物發送先

試航船 東亞丸 下關郵便局氣付

同 榮昌丸 山口縣徳山市 徳山試航基地氣付

○残務整理

特別保管艦 花月、春月、夏月、雪風、楠
横須賀地方復員局
管船部浦賀分室内第一群残務整理班事務所